

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ
シリーズ/NO 148号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ち、通算4300日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は276名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



教育長選任議案を否決、越谷市議会史上初の異常事態、反対した議員に求められる市民への説明責任

本日午前10時から、12月越谷市議会の最終日を迎え、市長提出29議案に対する本会議場での採決が行われた。

その中で、18年間にわたり教育長を勤められた吉田茂氏の退任に伴い後任人事の議案が、反対21票、賛成10票で否決された。

反対した議員は、自民党、公明党、立憲民主党、共産党、維新の会等の既存政党に所属する議員だった。越谷市議会史上、人事議案でしかも教育長と言う重責の特別職が否決されたのは過去に前例がない。

これまでの教育長を含む様々な人事議案(例

えば人権擁護委員等)に対して質疑はもとより否決事態は皆無だった。

それでは何故21人も議員が反対したのかは、誰一人も反対討論に立つことがなかったため、一切不明だ。提案された人物が何故不適格なのか、どのような人物ならば賛成出来るのか、他に適材の候補がいるのか等全く知る由もない。反対票を投じた議員には一層の説明責任が求められるのは当然であり、市民からの何故に誠実に答える義務があるだろう。

これで、教育長は空白となり今後どうなるのか全く見通しが無いままの事態が続くことに大きな失望を感じた。

更に職員定数を11人増員し、(仮称緑の森公園保育所開設に伴う保育士、こども誰でも通園制度開始にともなうもの、障がい者への相談体制の強化、中川・綾瀬川流域の治水対策の強化、労働基準法改正に伴う体制強化等)令和7年度に定数を3113人にする議案に対して自民党、刷新クラブ、維新の会が反対したが賛成多数で可決された。

この3会派は、反対討論にたったのでその理由を聞くことが出来た。その主旨は、①財政がひっ迫する中、人件費は固定費でありますます財政を硬化させることになる。②同規模の自治体と比較して本市の職員は多い。③財政捻出のため民間委託化やAI,RPによる合理化が進んでいない。④メンタル不調のためここ4年間で60人ほどの休職者がいる。⑤増員を要求している課以外の部署で補充調整がされていない。⑤休職や育児休業の職員が復帰したら、定数が増えてしまう。等だった。

しかし、以下の様な深刻な事態には言及がなかった。

- ① 職員の超過勤務時間は、全体で平均して月一人7、7時間だが市長公室行政デジタル課は、月一人25時間、市民税課10時間、資産税課12時間、介護保険課16時間、保育入所課40、8時間、生活福祉課62時間、障害福祉課13時間等市民に直接対応する課での超勤が常態化している。
- ② 民間委託化では指定管理者制度やPFI事業の導入によって令和5年度では30億円の減額となっている。
- ③ 職員の給与は、全国61の中核市自治体の中では、本市は42番目で月額401,552円であり、職員の人口一人当たりの割合では27番目で63,51人となっている。

(裏へ)

- ④ メンタル不調による長期病休、病気休職者は、令和元年で53人、令和5年度74人でこの間高止まりであり、その原因には職場の人員体制に大きな不備がある、と推測される。
- ⑤ 職員の離職者（定年を除く）は、令和元年度で98人、令和5年度123人となっており、その原因は様々だろうが身分が安定している公務員がその職を去ることは、職場の職務遂行に不全があるのではないかと推測される。
- ⑥ 必要な職員数を確保出来ないため、その補充の名目で会計年度職員（臨時雇用）で対応してきたが、令和5年度で1323人にも達している。実に全職員の30%にもなっており、3人に一人は非正規の会計年度職員であり、その給与は年額301万円で正規職員の36%にしか過ぎない。
- この補充によって、何とか業務を回している実態がある。（12月19日・木曜日）

今年も恒例の正月3日間、街頭宣伝活動で開始。あたなくどいわね？と市民

新年の幕開けとともに、本年も元旦、2日、3日と3日間にわたり市内駅頭を中心に新年街頭市政報告会と新年あいさつで、1年の活動のスタートを切ったが、これで21回目となった。元旦は、午前8時30分から増林の総合体育館前での第60回越谷市市民マラソン大会の開会式に参加した。当日は1200人もの親子づれを含む市民ランナーが参加したが、中には全身着ぐるみでの参加者も数多くいた。

思ったよりも寒くなく、むしろ日差しは柔らかい春を思わせるようだった。

この日の午後2時から午後4時30分過ぎまでせんげん台駅東口と西口で街頭宣伝活動に取り組んだ。例年と同様に女性の晴れ着姿は勿論男性の和服姿も一切見られなかった。

嘗て駅前のパチンコ店で女性従業員の方が何人も振袖姿で杵を使った餅つきで新年の宣伝活動の様子も閉店によってその姿はない。

3日間の活動では馴染みの市民の皆さんから何人も新年のあいさつや激励を受けた。中には越谷駅東口ではミカンの差し入れやカンパも頂いた。そんな中、せんげん台駅西口で、市政報告のため掲げている看板をしげしげと見ておられた高齢女性がいたので、私から声を掛けた。すると私は辻さんを応援しています、と

返事されたので、あー辻浩司県会議員さんのことですか、辻さんは昨年自らの不祥事が原因で辞職されましたよ。と応答。えーいい子だったのにーと返答されて、私石丸さんと国民民主党を支持しているんですよ、と。あー石丸さんって都知事選挙の方ですか、また石丸さんと国民民主党は関係ないですよ、と言ったらそうですか、それはそうですが、との返事だったので、何故石丸さんを支持されているのですか、と尋ねたら答えたくない、との返事。でも大きな影響を与えた選挙だったのでぜひ支持の理由を教えてくださいませんか、と。私。するともっと市民の声を聞くべきでしょう、と強い口調での返事だったので、えーですから支持の理由を教えてくださいませんか、と再度お願いした。すると、あたなはくどいわねーと捨て台詞で去っていかれた。

東京に限らず、人との会話を拒否して、自分の言いたいことだけを言い放つ、特に高齢者が増えていることをここでも実感した。

（1月元旦・水曜日、2日・木曜日、3日・金曜日）

越谷臨時議会、総額15億円余の補正予算に対する本会議場での質疑は私だけ

市長提出の令和6年度1月補正予算、総額15億5100万円が、提案可決された越谷市議会臨時議会が1日間の会期で1月24日午前10時から開催された。

補正予算の内11億円余りは、財政調整基金（自治体の積立金で、予算では想定出来ない災害時などの緊急事態に対応するもの）へ支出だが、残り4億円余は、「物価高騰対応のため重点支援で地方創生臨時交付金」の活用事業で11もの事業に支出された。

臨時議会での議案質疑は所管の各常任委員会での質疑、採決を省略して本会議だけの質疑、答弁となっている。しかし、事前に関係する議員に聞いたところ一切誰も質疑をしない、とのことだった。質疑準備のための休憩時間はわずか30分間。32名もの議員が一切の質疑もなく採決してしまうのでは、議会の存在理由を自ら否定する事にもなりかねないので、急遽質疑準備にとりかかった。答弁する複数の所管部長との答弁調整も必要であり執行部控室まで出向き、会議開始直前まで質疑原稿と調整が続き、7項目の質疑に立った。（1月24日・金曜日）